

① 学習指導案

プログラム	No.10「校歌の風景を見つめてみよう」
単元名 (全8 時間)	校歌から地域を見つめよう
学習のねらい	校歌を窓口として地域の価値を見つめ直し、そのよさを広めるために自ら行動する
学習内容	1.校歌にはどんな思いが込められているのかな 2.集めた情報をどう整理してまとめ、表現できるかな 3.下級生・保護者・地域に伝えよう
参考資料 準備品 実施場所等	本校校歌・拡大校区地図・デジタルカメラ・板段ボール・掲示板 本校校区・校舎

学習の流れ


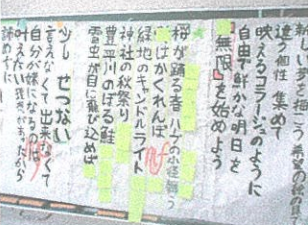




時間	学習活動	教師の指導	評価
1	校歌の歌詞には、石山のどんな風景が表現されているのかな	歌詞を準備し、子どもの考えを引き出し、地域で見られる景観とのつながりを明確にする。	知:歌詞から、地域の情景を思い浮かべることができる。
2	校区地図に位置付けよう	子どもの気づきを拡大校区地図に位置付ける。	思:歌詞の情景から問いを見出し、課をつくることのできている。
3・4	実際にその場所に出かけて調査をしよう。	行先別にグループをつくる。安全指導をする。必要に応じて、インタビュー先にアポイントをとる。事前に何を聞きたいのかを明確にして計画を立てられるようにする。	思:実際に場所を訪れたり、その場に関わる人から聞いたりを整理してまとめている。
5・6	得た情報をマップに位置付けよう	写真だけでなく、そこで感じ取ったこと、人に聞いて分かったことをカードに書き入れ、位置付けられるようにする。	思:調べたことを、校内・地域に広める方法を考えている。
7・8	得た情報を表現して地域に伝えよう (音楽3 図工4)	教科学習との関連を図り、表現の方法を豊かに考えられるようにする。また、互いに見合うことで、相手に伝わる表現になっているかを吟味できるようにする。	主:学習したことを、今後の自分と地域の関わりに生かしていこうとしている。







<留意点>

- ・校区内を歩く時の安全を確保できるようにする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 札幌市立石山緑小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
1	教室	卒業生が残した校歌の歌詞を準備して、子どもの考えを引き出し、地域に見られる景観とのつながりを明確にする。		校区の広い範囲が取り上げられていること、四季に分かれていることに気付いていた。
2	教室	自分たちが選んだ景観が校区のどの場所に位置するかを校区地図で確認する。 実際にその場所へ行く計画を立てる。	 	それぞれの児童が、自分の好きな歌詞があり、校区が豊かな自然に恵まれていることにも気付いていた。 場所を知っていても、その場所の生き物を自分は見たことがないという児童も多かった。
3 4	校区内各場所	実際に、校区の場所を訪れて、自分の目で見て、写真を取り、近くで生活する人にその場所への思いを聞き取る。	  	「この場所のことならこの人に話を聞きたい」と、これまでの地域学習で出会ったことのある人にインタビューをするなど、自分から調査の対象を決めて話を聞きに行くことができた。 子どもたちが、自分とは違う視点で景観を見ている地域の人たちの思いに気付くことができた。

<p>5</p> <p>教室</p> <p>聞き取った話と、撮影した写真を組み合わせて、発表資料を作成する。</p>				<p>歌詞ごとに、聞き取ったことと写真を組み合わせて張り出すことで、地域の人の思いの多様さに気付くことができた。また、これらを、たくさんの人に知らせたいという思いが膨らんだ。</p>
<p>6</p>	<p>教室</p> <p>校区全体地図にも、写真を位置付けて配置し、全貌が見えるようにする。その中で歌詞と関連付ける。</p>		 	<p>校区地図に位置付けることで、景観の広がりをとらえることができた。</p>
<p>(図工4)</p> <p>7</p> <p>8</p>		<p>聞き取ったことをもとに構図や色の塗り方を工夫して風景画を描く。</p> <p>土曜参観日の日に、保護者や下級生に向けて張り出して、自分たちの学びを発表する。</p>	  	<p>図工の学習で、画家の特徴的な筆のタッチを学んでいたため、子どもたちが、それぞれの思いを表現することができていた。</p> <p>参観に来ていた保護者に、自分の調べたことや作品に込めた思いを伝える児童の姿が多く見られた。</p>

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

校歌の歌詞を子どもの文字で見える化し、体育館に掲示できる大きさを表したことで、自分たちの活動を、全校に広めていくという意識をもたせることができた。校歌は、6年生の歌声で学校をリードしていくという意識を年度当初に子どもたちと確認したことが、この学習の強い動機付けとなっていた。

さらに、図工や音楽と関連付けて単元を構成したことで、子どもたちが調べたことを表現する方法のレパートリーを広げることができた。総合の学習の時間だけでなく、横断的に取り組むことで、子どもの意欲を持続することができた。

(2) 実施にあたり苦労した点

地域の人たちに、インタビューに出かける活動では、校区が広いため、安全の確保が課題となった。活動の趣旨を理解してくれた地域の青少年育成委員の方にご協力いただくことができたので、この問題を解決することができた。

ここ数年は、コロナ禍で地域の人との関わりの経験が薄かったため、事前に、校内で質問する場を設けた。グループで行動し、相手に合わせて丁寧に話をするなど、学校外の人とかかわる手立てを確認することに時間を要した。

今後は、各学年でかかわり方を積み上げていくことができるので、今回のようには時間を要しないと考える。

(3) 児童の反応

校歌に出てくる場所もわかるし、そこに関わっている人のことも知っていたが、いざ、自分で質問でかけるとなると、話しかけることに緊張を感じていた。また、聞きたいことを準備しているにもかかわらず、帰ってきた答えから、さらに深める質問をすることができず、戻ってきてまとめるときに、苦労していた。

情報を集めたつもりが、まとめる段階で、不足を感じる児童が多かった。見通しをもって活動することの大切さを感じたとともに、放課後や下校時に追加の資料を撮影にいくなど、補う姿も見られた。

自分がお気に入りの場所について、大人がその思いを語ってくれる姿は、子どもにとって、とても貴重だったようで、戻ってきたときには達成感をもっていた。ただ、子どもの質問が大きすぎて、地域の方の思いに迫るインタビューにならない場合もあり、聞き出した情報を比べることで子どもたちは、インタビューの質についても目を向けることができていた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

単元を進めていくにあたり、事前の調整をしながら、教員が地域の人たちとつながり、その中でそれぞれの場所への思い入れを聞くことができ、子どもとともに地域への親しみを深めていた。

今回は、開校時の校歌作成の流れを知っている教員と知らない教員が混ざった状況であったが、今後は、人員が変わって、流れを知らない教員ばかりになる。なので、この学習を継続して取り組んでいくことで、校歌の由来を教員の中でも引き継いでいくことができると考える。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

本校の校歌は、地域の四季の様子が歌詞となっている。学習の実施時期によっては、その場所に出かけても児童が歌詞のイメージした様子を写真にとることができない場合も多い。学校の記録として、子どもの活動に合わせて、四季折々の記録写真を残しておくことで、子どものイメージを広げることができると考える。

6年生が、校歌をどう歌うかを考えたものを、代々次の6年生へと伝えることで、学習を引き継いでいけると、毎年の景観の学習が充実したものとなると思う。